

魚津で暮らす女性の
ライフスタイル m o o k

ウ オ ヴ と ワ タ シ



2018
Summer

4

第4号

魚津で暮らすということ。
女性であるということ。
やりたいこと。
夢。
誰かと話すことでも気づくことがある。

Love Uozu.





少し低いドアをひらいた先には、形や色のきれいなお酒のボトルが壁一面にうめつくされ、薄明かりに照られたカウンターには、磨き上げられたシェイカーがきれいに並べられている。黒のバーコートに身を包んだ佐々木さんがこやかに出迎えてくれた。

生まれも育ちも魚津という佐々木さん。カクテルとの出会いは、母親の飲食店を手伝っていた頃。自然とお酒に興味を持ち、独学でカクテルを作るよう。そしていつしか本物を求め、プロのバーテンダーがいるバーの扉を開けると、その技術や感性、所作の美しさに感動し、ますますカクテルの魅力に引き込まれていった。

カクテルとの出会い



米騒動の発生から
今年で100年。



大正7年(1918年)7月23日の朝、魚津の漁師の主婦たちが立ち上がった。

米値高騰に苦しんでいた主婦たちは、米を県外に積み出すから米の値段が高くなるのだと話し合い、米の積み出しの中止を頼むことにした。100年前のこの日、50~60人が米倉の前で積み出しをやめるよう訴え、中には米俵につかまる女性もいたという。この事件は新聞記事となり、その後全国で米騒動が広がりを見せ、時の内閣を総辞職に追い込んだ。

この魚津の米騒動で特筆すべきは、「騒動」という名前から連想されるような暴力的なものではなかったということ。自分たちの暮らしを何とか守りたい、という女性たちの願いが生んだ出来事だったということだ。

米騒動から100年後の2018年。魚津での暮らしの豊かさ、人々の生きる強さを再び感じるきっかけの年となればと願う。

TOPICS!

ドキュメンタリー映画『百年の蔵』公開 [2018年7月]

「あの時、魚津で何が起こっていたのか」。
今の魚津を生きる人々が残された資料や子孫を訪ね歩き
その痕跡をたどります。魚津の高校生たちも参加。

[主催]映画『百年の蔵』制作委員会

米騒動100年事業「米騒動フォーラム」

2018.11.10(土)・11(日)

会場／新川文化ホール

講演やパネルディスカッション、映画の上映会を開催。
日本近代史上での米騒動の意義を県内外へ発信します。

[主催]魚津市教育委員会

米騒動100年事業企画展示「魚津の米騒動」展

2018年6月15日(金)~11月18日(日)まで開催

会場／歴史民俗博物館

[主催]魚津市教育委員会

001
米騒動の発生から
今年で100年。

002
魚津で
暮らすひと。5

005
魚津で
暮らすひと。6

006
わたしたちウオヅの
ここが好きです

009
#SODO
ミッションレポート

010
あとがき

2018
Summer 4

バーは非日常の空間

もっと広くたくさんの人々にカクテルを知ってもらいたい。そう考えた

佐々木さんは、カクテルコンペティ

ションなど多くの大会に出場して腕

を磨き、オリジナルカクテルを作る

ために自ら試飲して研究を重ねた。

カクテルは配合が難しく、味が1味

当初は思い通りにならない様々な苦労

があった。居酒屋やスナックが建ち並

ぶ魚津の飲み屋街。最初の3年間は焼

酎をオーダーされること多かつた。「カクテルバーなのに壁一面にお

客様の焼酎ボトルが並んだこともあつ

たんです」と当時を思い出しあ笑いを

見せる。せっかくお店に来て頂いたの

だから、家で飲むお酒とは違うものを

味わって欲しい、カクテルに興味を

持つて欲しい、と焼酎のボトルキープ

をやめた。お客様が何を求めているか

を常に考え、少しでもカクテルに興味

を持つてもらえるよう提供の仕方にも

工夫を加えた。会話を大切にし、焼酎

を希望されるお客様には珍しい焼酎や

焼酎ベースのカクテルを勧めた。また

自分自身のスキルを高めるため、定休

日には東京銀座にあるバーに通い続け

ている。6年ほどたった頃、「お店に

出ても良いよ」とオーナーに声をかけ

てもらい、今では銀座でバーテンダー

として腕を振るう時もあるという。

来店してくれるお客様だけでなく、



魚津の魅力を満喫



佐々木さんのプライベートはアウトドア一色だ。夏はショノーケリングに冬はスキー、春は魚津の山で山菜を探り、バイクでツーリングにも出掛けている。なかでも、一年を通して楽しんでいるのが釣り。釣りをするにはうつづけの環境であるこの魚津で、陸釣り

変わるために、無限の可能性がある。だからカクテルは面白いんです」。そう語る佐々木さんの、努力の積み重ねが大会でも結果に出て、お店にはたくさんの賞状が飾られている。

も船釣りもこなす。また、相母の実家が魚屋を営んでいたということもあり、釣った魚は全て自分でさばいて、大抵は刺身で食べるという。そんな佐々木さんの釣り歴は長く、小学校低学年の頃には、園芸用の支柱やミシン糸などの身近な物を使い、小さなフグなどを釣っていたそう。これも海が身近な魚津ならではだろう。

生まれてからずっと魚津で暮らしているのは、魚津の自然を満喫できているからだといふ。「海なら蟹気棲ロードを、山なら東山から片貝山ノ守キャンプ場へ続く道をバイクで走ります。山の道は車も少なく、360度緑に囲まれているので走っていて気持ちがいい」と話す。「魚津はとてもコンパクト。海と山がこんなに近い場所は他と比べても珍しいと思う。街も不便を感じないし過ごしやすくて、四季の味覚を気軽に味わえるところが最大の魅力です」。さらに佐々木さんは「魚津は美食の街だと思う。どこのお店も美味しい。自分のお店もそこに携わることができるようスキルを磨き、一人でも多くの

▼[左]バイク仲間たちと。[右]好きなことをしている時の最高の笑顔!



Check it!

おうちでできるカクテル

ワンポイント アドバイス

自宅で作るときは、材料もグラスもなにもかも冷やしましょう！グラスが冷えていると氷が溶ける速度が遅くなり、水っぽくならずおいしく飲めます。

Ice-cold!



▲店内に並ぶたくさんのトロフィーや賞状





▲子どもたちと。癒しのひととき

「とにかくメイクが楽しかった」。幼いころから、色鉛筆などカラフルなものが好きだった高森さん。高校卒業後、美容の仕事をしたい一心で東京の美容専門学校へ行った。そこで何度も体験した「ショーアン」の一休感が忘れられず、地元へ帰つてから、ブライダルヘアメイク業界へ足を踏み入れた。アシスタントとして経験を重ね、その後フリーランスとなり、現在で11年になる。「最初の一歩は、散歩している途中に見つけたお店へ、仕事をくださって飛び込んだことですね」。お客様がゼロからのスタートにもかかわらず、高森さんは不安はなかつた。持ち前の行動力で仕事を見つけ、そこからどんどん次へとつなげていった。

職業は「ヘアメイク」と聞くと華やかそうに思えるが、細やかな心遣いが必要だとか。撮影の現場では、場の空気を読んで臨機応変に対応するスキルが求められる。「メイクの技術はもちろん必要ですけど、心遣いが何より大事な業界です。大変ではありますが、私は仕事にストレスはありません。天職だと思っている

からかな。これだけ続けてこられたのは、負けず嫌いだからかもしれませんね」。その言葉通り、高森さんは、とにかくヘアメイクにつながる研究を惜しまない。ヘアメイクの現場では、メイクするお客様と会話を交わして好みを探るなど、情報収集を欠かさない。言葉からだけではなく、表情から読み取つてメイクの調整をすることがある。「イメージしていた以上に仕上がり嬉しい」と、お客様から喜びの感想をもらうことが多いのは、たくさんのがあるねがあつてこそなのだろう。

仕事を 子どもたちに伝える



Mamiko Takamori hair and make-up artist



ヘアメイクの仕事は
私の天職だと思っています
「好き」と「負けず嫌い」があったから
ここまでやってこれた

華やかに見えるけど ハード。 「ヘアメイク」という仕事

まるで米袋でも入っているかのようにずっしりと重く、大きなバッグをかつぎ上げ、仕事先へと向かう。メインで行つているのは、ヘアセットとメイクアップの仕事。ブライダルの会場や、映画・CM撮影の現場など、ヘアメイクが必要なところへ出かけていくスタイルで働いている。メイク道具がぎっしり詰め込まれたバッグとともにあちこち移動する日々は、かなりの体力を要する。けれども、明るい笑顔をみせながら細身の体でひょいとバッグを持ち上げる姿は、とてもさわやかだ。



たかもり まみこ
高森 真美子さん

1982年生まれ
魚津市出身

好きな仕事をイキイキとしている高森さんだが、子育てとの両立はどうしているのだろう。ヘアメイクの仕事は、時間が不規則なことばかり。出張も多く、真夜中に帰ってくることも。「子どもたちがかわいそう、なんて言われることもありましたね」。周囲にも理解

されにくい職業だからこそ、高森さんが心がけているのは、やつてきた仕事の内容を子どもたちに伝えること。「それもあってか、子どもたちもしましたが、娘にモデルとしてお手伝いをしてもらいました。本人も嬉しそうで、最近では私のメイクに意見してくれるくらいになりました」。

また、高森さんの原動力となっているのが、近所に住む両親の存在だ。「両親のフォローがありましたし、存分にやればいい、と背中を押してくれたのでこれまでやってこられました」と、感謝の気持ちをにじませていた。

**魚津は空がひらけていて
風が気持ちいい**

東京で暮らした経験もあつたが、住むなら魚津、

と決めていた高森さん。「夜に帰宅したとき、都内だと星も見えないけれど、魚津だったら虫の声まで聞こえます。空がひらけていて、風が気持いいところが好きなんです。そんな魚津の居心地が良くて、ここでも暮らしたいと思いました。休みの日は子どもたちを連れて、公園へよく行きますね。ふたりが遊んでいる間、私はボーッとするのが好きなんですね」普段の仕事でいろんなアンテナを使っていることもありますが、多方面で仕事をしていくますが、もろん遊びのびのびとした気持ちで過ごせるようになっています。「これからも多方面で仕事をしていくますが、暮らしのベースが魚津なのは変わらないです」

女性を楽しむこと、自信をもつキッカケ作りのメイクレッスンを開催したいなど、やりたいことがどんどん膨らんできている高森さん。今後、美しくしたいと思う女性の気持ちを叶えるヘアメイク講座が魚津で開催されるかもしれない。女優さんのメイクも手掛けるプロが教える、メイクのコツ。楽しみにしたい。



高森さんへの
お問い合わせ

Salon & sydan

〒937-0811
富山県魚津市三田765-36
[E-MAIL] mmskito@gmail.com
[Instagram] mamisyyan

Check it!

おうちでできるメイク

ワンポイント アドバイス

顔の印象は9割「まゆげ」で決まる!
メイクをする際には、まゆげのバランスに気をつけてみましょう。





▲お気に入りのメイク道具、高森さんの大事な相棒

「魚津のいいとこ・いいものを伝えたい」。「自慢のライフスタイルがある」。
「お気に入りのお店を紹介したい」。
「魚津での暮らしを満喫している女性を紹介したい」。
魚津のとっておきの情報を、私たち ※SODO に教えてください。

※SODOとは? *What is SODO?*

いま、若い女性たちへの対応が魚津市の大きな課題となっています。そんな中、2013年10月に発し、いすゞジオホールチームを結成。その名は「※SODO」と「メアワウドウ」。魚津は水郷駿駒飛昇の地。生活を守りたいと奮起し、行動を起こした女性たちの歴史が刻まれたこの地で、私たちにもできることをやってみようとの想いから誕生し、活動しています。

「魚津で暮らすこと」を決意した私たち、魚津で活動している女性やいわいいろなコトを知らたり、前よりもっと魚津を好きになっています。私たちはこれから、またぜですか自分がもせざることを探して、この想いを発信していきます。

「ウォタタ」バッグナンバー
あります。

魚津市役所、図書館、魚津駅などに
設置しております。郵送もいたします。
設置場所も募集中!



お問い合わせ先

※SODO事務局

魚津市役所2F 地域協働課 女性活躍社会推進室
TEL: 0765-23-1131
E-MAIL: chiki-kyodo@city.uozu.lg.jp

次号は2019年春頃の発行を予定しております。
お楽しみに♪

※SODOから
今回の「ウォタタ」でひとつこと。
今回の表紙は幾元でおなじみの
「カボチャ電卓」です。
見かけるとトクした部分につ
因みに白とグレイのパーソンは昔で
「ダイコン電卓」と言われているとか。
表紙は朝から暮で10分のところにある
静島という場所。
毎年おいしいお祭が行われています！

ウ オ ツ と ワ タ シ

第4号

発行日 2018年7月20日

企画・編集 ※SODO

発行 魚津市 地域協働課 女性活躍社会推進室
〒937-8555 富山県魚津市駅舎堂1-10-1
TEL 0765-23-1131
FAX 0765-23-1051
E-MAIL chiki-kyodo@city.uozu.lg.jp

冊子デザイン ホリデザイン制作室

写真 鬼塚仁奈 [tete studio works]

表紙モデル ※SODO

PROJECT

※SODO ミッション・レポート

「うおづで働く女性たちのトークイベント & CAFE」開催。

2018.3.4 SUN 13:30-15:30 ※コワーキングスペース madohi-09



魚津市内で起業経営をしている女性たちによる、トークイベントを開催。

魚津市東尾崎でアンティーク風の手作り時計を製造・販売している「meu tempo」伊藤 美沙さんをゲストに迎え
※SODOメンバーの「藍染め屋 alya」南部 歩美さんが司会を務めました。

イベントの後半は、時計作りの実演やフリートーク、カフェタイムにはコーヒーとココマカロンさんによる
時計をイメージしたマカロンがふるまわれ、参加者同士で交流を深めいただきました。

魚津で暮らす女性を増やそう!

この冊子を、お子様やご友人など
女性におすすめしてくださいませんか？

魚津市は近年、若者、特に20・30代の女性の人口が減ってきてています。
この冊子では、魚津で暮らす女性に関する「ヒト」「モノ」「コト」を取り上げています。
Uターンを考えている方、魚津への移住を考えている方。
進学や就職で魚津を離れるかどうか迷っている方、など。
この冊子を通じて、より多くの方々に
魚津で生活する魅力を感じてほしいと願っております。

